



彩～高校生が描く新しい日常～

超・学校祭

-2023-

事業報告書

超学校祭実行委員会

United for Next

超・学校祭-2023-開催のご報告とお礼

高校生が創るこのイベントを通じて、自ら学び、社会を活気づけ、私たち高校生の情熱や可能性を示したいと思い、今年も超学校祭を開催しました。

そして、各校からの出演者の皆さま、多くの企業・団体・個人の皆様にご支援いただき、無事に開催することができましたことをご報告いたします。

まずは、ご協賛・ご後援・ご協力していただいた皆様に心より御礼申し上げます。

さて、この超学校祭は今年で4回目の開催となりますが、第1・2回はコロナ禍の影響でオンライン配信での開催、第3回は台風の直撃により延期、急遽ホルトホールでの屋内開催となり、祝祭の広場での開催は発足当時から悲願でありました。

そして9/17、今年の超学校祭。当日は晴天に恵まれ、多くのパフォーマンスや企画に対し、6000人を超える方にご来場いただき、当初の予定を大幅に上回る大盛況のうちに終えることができました旨をご報告いたします。

私たち実行委員が各所で連携して進行する姿、日ごろの鍛錬の成果をステージや広場で元気いっぱい披露する出演者の姿、その頑張りに拍手や賞賛で応える来場者の皆様方の姿を見ることができ、高校生の情熱と可能性を示すことができたと思っています。私たちはこれからも、自身の社会教育学習と地域社会への貢献を、この超学校祭をはじめ、United for Nextでの活動で続けていきたいと考えています。

今後とも超学校祭実行委員会ならびにUnited for Nextに、変わらぬご支援をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

超学校祭実行委員会
実行委員長 二宮斗威
[United for Next第4期代表]

①開催までの取り組み



行政や業者との打ち合わせを高校生自らが行うことで、社会経験を積むことができ、将来社会に出た時に役立つ経験を身に付けることができました。



出演する団体には、事前に撮影やインタビューを行いました。その様子をSNSに投稿し、イベントに対する機運を盛り上げていきました。



各部署での進捗状況などを月1回の実行委員会（全体会）で報告・共有し、実行委員全員で創り上げる「超学校祭」を進めていきました。

②本番当日の様子



オープニングは豊府高校吹奏楽部の演奏で幕を開け、ダンスと組み合わせた軽快な演奏で場を盛り上げてくれました。



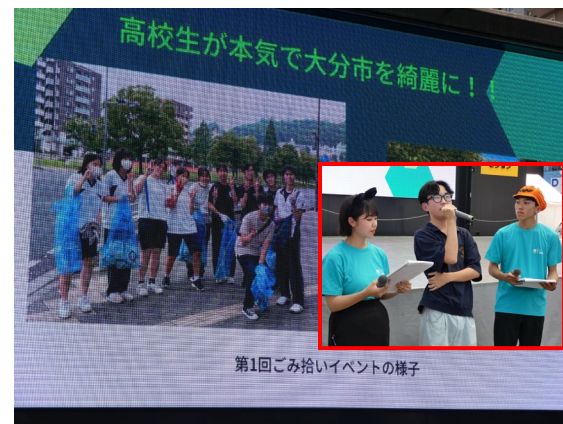
雄城台高校書道部は1.8*5.4mの巨大なパネルに超学校祭のサブテーマにちなんだ書を書いていただきました。



日本文理大附属高校チアリーディング部の3層ピラミッドは圧巻の演技！観客から驚きの歓声が上がっていました。



どのパフォーマンスも、観客席だけでなく立ち見も出るほど多くの方々にご来場いただきました。



私たちと同じ志で活動している他の高校生団体にも出演いただき、活動のPRの場を提供することで、広く周知につなげた。



今回は初めて、支援学校系の生徒にも出演いただいた。SDGsの目標の1つ「すべての人が取り残されないように」を掲げた取り組みでもあります。



実業系高校による農産・加工品の販売会も行いました。県内の高校生が授業や部活動でどのような取り組みを行い、生産している知っていただく良い機会となりました。来場者の方に盛況で、ほとんどの店で完売でした。



パフォーマンス、物販などすべての出演者は、24団体300人以上の高校生に及び、県内の県立・私立、進学系・実業系・通信制を網羅した「高校の垣根を越えた文化祭」が実現できました！



(左)大分合同新聞社
(下)OBS(右下)TOS

各自がそれぞれの部署でイベント全体を支えあい、成功に導きました。(左上から順に右へ「ステージ機材出し」「フォトコン受付」「本部受付」「音響」)

OBSやTOS、大分合同などのメディアをはじめ6社からの取材があり、TVやネットで大きく取り上げていただきました。





▲公式インスタ
▼公式HP



全ての予定を無事に終え、全員が何かしら得るものがあったイベントでした。関係者の皆さんと記念の写真撮影で幕を閉じました。一連の詳細は公式インスタグラムの記事で詳しくご覧いただけます。



えとう窓口さん(Wエンジン)がスペシャルサポーターとして参加。私たちと共に会場を盛り上げてくれました！



▲当日の会場の様子を、えとう窓口さんのYoutubeチャンネル『えとう窓口ちゃんねる』にてご紹介いただきました。ぜひ、上記QRコードからご覧ください！



協賛者(1万円以上)、後援者の方々のお名前を会場入りロスポンサーボードに掲載させていただきました。多大なご協賛をいただいた企業・団体のお名前については、ステージ横の観客の視界に常に入る場所にもボードに掲載させていただきました。すべての支援者のお名前はホームページ上に掲載させていただいております。左上のQRコードからご覧いただけます。



実行委員からの感想①

◆布村龍有暉（大分鶴崎高校3年・音響担当）

私は音響を担当させていただきました。

出演団体のみなさんの素晴らしいパフォーマンスを、観客のみなさんにしっかりお伝えできるように、台本をしっかりと読み込み、機材などの準備を行なって当日本番に臨みました。

本番では、たくさんの観客の方に大分県の高校生のパワーを感じていただくことができ嬉しかったです。

このイベントでの経験をもとに、大学で学びたい地域創生につなげ、将来、大分で地域のイベントを通じて貢献していきたいです。

◆角田菜緒（大分豊府高校3年・副実行委員長）

私は副実行委員長を担当しました。

学校も学年も違う実行委員を、どうやってまとめるべきかを考え続けた準備期間でした。

本番前日までは不安だったが、本番当日は自ら率先して動く実行委員や、多くの人たちの支えもあって本当に素晴らしいものができたと思います。

私はイベントを通して、人をまとめることの難しさを学ぶことができました。今後もこのイベントのような地域貢献活動を行いたいと考えているため、今回得られた経験を活かしていきたいです。

◆姫野音々（大分豊府高校2年・司会担当）

私は超学校祭においてイベントを進行する司会を担当させていただきました。

司会をする中で私の目標は、会場の雰囲気盛り上げるといった自分なりのアイデアを盛り込めるようになることでした。そのため、他のイベントの司会者のトーンを模倣してみたり、自分のモットーを活かせるような練習に励み、本番では会場を明るい雰囲気に保つことができ、本当にやりがいを感じました！

超学校祭を通して、人前で話す時の丁寧な言葉遣いや、トーク力を培うことができこれからは副会長として学んだことを生かしていきたいです！

◆酒井郁啓（別府翔青高校3年・ディレクター担当）

私はディレクター（進行係）を担当しました。

本番までは配布された台本をもとに、決められた時間に演技を始める指示を出すことや必要なものを準備するなど、何度も台本を確認しました。

本番では1つでもミスがあると、ディレクターの責任となる大きなプレッシャーの中で、何も問題なく終えることができ、超学校祭の成功に貢献することが出来ました。

私はこの経験をしたことで、1つのことに集中し、何事にも責任をもち、最後までやり通す大切さを知りました。

実行委員からの感想②

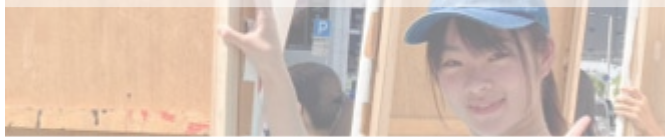
◆首藤百結（東明高校2年・司会担当）

私はこのイベントで司会を務めました。

来てくださったお客様に、正確な情報を楽しんでもらえるよう伝えるため、話す速度やトーンなどを工夫しました。

大勢の前で話すのは最初は緊張しましたが、皆さんの笑顔や拍手に支えられ、大きなミスもなく楽しみながら取り組むことができました。

今回のイベントで、自ら考えて行動する大変さを改めて学び、今後指示を待たずに動ける人間になるため、経験を生かしていきたいと思います。



◆河原晴乃（N高校3年・ステージ機材出し担当）

私は機材出し担当の責任者でした。UFNに参加しからの期間が短く不安もありましたが、効率の良い動きの導線やメンバーの配置などを考えていく中で、行動力やリーダーシップを培うことができましたと思っています。

私は来年度から大学に進学するため、この経験をこの場で終わらせず、さまざまな方面で活かしていけるように努力します。

大分県の高校生との交流、貴重な体験をさせていただいた時間は一生の宝物です！

◆幸野玲央（別府鶴見丘高校3年・出演班班長）

私は今年のRe超・学校祭2022で吹奏楽部として出演し、私と同じ高校生が輝きながら準備、運営に取り組んでいる姿を見て「来年は自分も超・学校祭の実行委員として携わりたい！」と強く思い、United for nextへの加入しました。あれから1年、この団体は高校の垣根を超えた出会いだけでなく、その先には学校では経験することのできない多くの貴重な経験をしてきました。私は、この団体での経験を活かし、人と人との出会いを大切にして、大分県の地域活性化の一躍を担える人間になりたいと思います。



◆北村莉彩（大分舞鶴高校2年、楽屋担当）

私は当日出演する団体の楽屋担当でした。

本番までは、会議に参加したり、出演していただく団体の取材に行ったりと、「超学校祭」開催、成功のために尽力してきました。当日はたくさんのお客さんもいらっしゃって、とてもやりがいのある一日になりました。

私はこのイベントで、一つの目標に向かって今できることに全力を尽くすことと、それが実った時の感動を学びました。この先の夢を叶えるために、この感動を忘れず生きていきたいです。

■開催実績報告

イベント名	超・学校祭-2023- 彩～高校生が描く新しい日常～
日時	令和5年9月17日(日)10:00～17:00
会場	お部屋ラボ 祝祭の広場 (大分市府内町1丁目1-1)
出演団体	大分豊府高校吹奏楽部、大分高校吹奏楽部、大分支援学校音楽部&書道部、大分上野丘高校ダンス同好会、大分豊府高校ダンス同好会、楊志館高校邦楽部、日田三隈高校M-teens(ダンス)、大分雄城台高校書道部、大分舞鶴高校音楽部、昭和学園高校バントワリング部、大分高校ダンス同好会、大分鶴崎高校ギターマンドリン部、福德学院高校ダンス部、日本文理大附属高校チアリーディング部「BRAVES」、日出総合高校農業経営科、大分東高校園芸ビジネス科、大分商業高校商業調査部、日田三隈高校三隈マーケット部、津久見高校商業調査部、昭和学園高校製菓衛生師コース、津久見高校DXソリューションチーム、CleanAte
来場者数	約6,000人 (関係者、出演者含む)
主催/共催	(主催) 超学校祭実行委員会、United for Next (共催) 子どもの未来を語る会おおいた
特別ゲスト	えとう窓口さん(Wエンジン)
協賛	大分県立大分舞鶴高等学校 同窓生有志一同、お部屋ラボ、(有)トラッシュカンパニー、ノットファクトリー、アートホーム豊友(有)、ヴェルスパ大分、大分鶴崎高等学校PTA、ハーネス(株)、much-on! By OBS大分放送、ひとさぼ、別府翔青高等学校PTA、三浦保険事務所、未来学園、(株)育成サポート真心、(株)大分銀行、大分県立学校長協会、大分県立学校事務長協会、(有)大分サンテンマイカー、大分信用金庫、大分中学・高等学校、大分みらい信用金庫、(株)コスモレンタル、(株)ザイナス、さくら運輸(株)、(有)高田設備、日本製鉄大分、(株)疋田建築、(株)別大興産、別府大学・別府大学短期大学部、明治大学校友会大分支部、柳井電機工業(株)、矢野建材工業(株)、大分東明高校職員一同、(株)アクティブコミュニケーションズ、(有)安部武利商店、(株)ありたや、(有)臼杵緑地、大分市中央町商店街振興組合、大分ヤナセ(株)、OSS(大分セールスマンスクール)、社会医療法人社団 大久保病院、大高商事(有)、(有)お茶の山口園、割烹のがみ、九州犬友社、九州瑞穂(株)、(有)古長総合設備、大分県立佐伯鶴城高等学校PTA、(有)佐伯電業社、(株)JTB大分支店、ショッピングプラザカサキ、(有)新建工房、寿司めいじん、医療法人 聡明会、(有)大樹、(株)ダイユウ建設、(株)地域科学研究所、竹炭地鶏七輪焼炭仙人、チャイルドラインおおいた、(株)テナント興産、東京海上日動火災保険(株)、(有)東和石材、鳥ざんまい、(株)中村建材店、(株)ニック、日産プリンス大分販売(株)、日本教育公務員弘済会大分支部、(有)ハマノ不動産建設、(有)御手洗水道工業、山総(株)、(有)山田機械、由布院いよとみ、由布院うどん田舎庵、Yショップ伊勢屋、阿座上凌太郎、小川恒夫、永松雄治、姫野清高、福田圭吾、宮瀬雅士、和田俊二、あさの食専、(有)麻生茶舗、L.V.support、大分県信用組合津留支店、加藤寛章、かとう整骨院、からあげ和幸福、からあげ工房「和」、(株)佐伯クリーニングセンター、ジョルノス ブレッド&デリ、(有)草庵秋桜、大衆理容 森町店、大心産業(株)、デイリーヤマザキ上田尻店、デイリーヤマザキ数戸台店、(株)トキハ別府店、中野モーターズ、ピザアルト 別府店、フラワーショップ花精、別府創作color-ageかま田け、ホテル日航大分 オアシスタワー、(有)まるみや、阿南典久、江藤紀香、川村和夫、大分太鼓堂、メンズショップ スタート、笠田竜聖、河野竜也、Said hair and lifestyle、他18企業・個人(敬称略)
後援	大分県・大分市・大分県教育委員会・大分市教育委員会・大分県高等学校文化連盟・大分県高等学校PTA連合会・大分県立学校長協会・NHK大分放送局・大分合同新聞社・OBS大分放送・TOSテレビ大分・OAB大分朝日放送・エフエム大分・J:COM大分ケーブルテレコム・ゆふいんラヂオ局